



古今圖書集成

近藤氏藏書			
一	四	歷	和
〇	六	史	書
冊	號	函	門
		類	

四

リ 5
6039
4.



05
6039
4

大周記卷第七月錄



一 而可代之事
一 金殿之評

- 一 根本考兵大之事
- 一 四國正治之事
- 一 國自職每象居任官之事
- 一 五車以之文
- 一 大仙友之事
- 一 十野大榮陽之事



藤忠
文庫

昭和八年
六月三日
小島新吉氏
長男及今郎
大島

いそぐーくれ成に守る

○金賤之事

考古云御病入候御方石傳まゝ久金銀
米錢あつたもあつた事夥し事なり
く屋うよ過年財宝あつたもあつた事なり
こく禮ハ慳貪くつ事とやらんよあつたり
たもあつ事ゆと由正は眼も同あつに作
い直しくつる音口上しくつるに
てんよとて天正十二年初秋の頃金子五子板

銀子二万枚。信侯大丈筆を以て之り。聚柴也
南のかさよとて君よとをさるく御賤を
く物より快よあつ事あつらるべは又之を
信子及び活潑なり。京番の地して。真さあつ
云居る。活潑く地たり事久の古今よ傑
強く君よりとて感ありき

評曰。度々の金賤。再荒れあひ。時の御
事。病いも子孫たなへして。兵の爲よあつ
と。大臣少臣に。寸金銀。漸く持し
を。ね。あ。し。事。官。と。虚。之。患。あ。は。し。

情 既 數

寔に急し、元國々として、其富強と健行。令浪
 と多く、其銅と志、其一車も、只民故々々々也。其女
 取あひ、其一に國と也。然る民の其先^萬に百分、其亦
 一、其石^千と也。御さにもち、其後、其何を
 瓦礫に同し。もて、其後、其銅の^カを^カと、其後、其一
 所、其夷、其洞、其夜、其故、其然、其之、其身、其福、其故、其あ、其く、其樂、其之
 河、其の、其所、其に、其或、其回、其民、其の、其に、其女、其に、其何、其也、其乃、其事、其を

一、其事、其お、其職、其と、其撰、其を、其所、其の、其事、其を、其書、其く、其一、其所、其を、其る、其事、其を
 一、其事、其候、其約、其成、其さ、其る、其事、其を、其下、其情、其と、其連、其を、其一、其所、其を、其事、其を

子

敗

一、其國、其家、其之、其安、其存、其を、其心、其の、其め、其く、其く、其た、其る、其者、其を、其心、其の、其國、其を
其布、其治、其を、其魚、其一、其心、其育、其を、其り、其横、其目、其を、其心、其の、其國、其を、其一、其事、其を
其印、其を、其形、其を、其画、其を、其治、其を、其成、其り、其物、其を、其得、其る、其事、其を

伽藍

大、其か、其ら、其ん、其等、其を、其多、其く、其い、其て、其さ、其る、其式、其を、其カ、其ワ、其ラ、其イ、其と、其い、其ふ、其は
 や、其う、其一、其上、其下、其を、其と、其ら、其一、其め、其お、其ま、其る、其心、其の、其金、其銀、其を、其つ、其ら、其ひ
 と、其て、其治、其り、其ん、其ど、其り、其の、其國、其の、其橋、其伐、其く、其に、其信、其く、其成、其故、其を
 あり、其の、其地、其を、其立、其つ、其り、其十、其石、其或、其一、其石、其或、其又、其尺、其三、其尺、其の、其橋
 と、其て、其國、其の、其守、其護、其を、其金、其の、其形、其を、其と、其ら、其つ、其ら、其り、其右、其橋、其を

を 役

掛下申上日被祈付しつゝ民の爲永代由せぬ
 且次少くも一。志くあれたるも費用とて
 ひおやとまふひ二年軍役とせり。一。年々
 かりて石を以掛給ひふひはと限の法次
 て侍りてふふ。一。学くつたゆふせに在り
 り由し侍りしは依く。秀頼云御代とて
 一。事もた。一。極。一。多ひ。一。御
 扱子名物乃器再刀賜粉金銀等恩賜を
 一。秀頼云。一。やの事。一。救ひ侍る。一。
 あり侍りし。一。お。一。よ。一。の事。一。ん。一。た

去

留

しあるに大坂虎印の意難し。惟、秀頼と日續
 侍りし。一。下。一。在。一。る。一。下。の。一。事。一。あ。一。そ
 う。一。成。一。一。お。一。母。一。の。一。侍。一。り。一。ん。一。り。一。ま。一。を。一。大。一。旨。一。の。一。秀。一。吉
 公亡君位長多れ御連枝よ討。一。義。一。理。一。と。一。善
 へ侍りて。又秀頼よ。一。志。一。長。一。義。一。理。一。と。一。存。一。志。一。と。一。善。一。道
 と。一。や。一。か。一。く。一。あ。一。り。一。侍。一。り。一。く。一。お。一。ん。一。と。一。ま。一。ふ。一。あ。一。の。一。信。一。忠。一。云
 乃厚恩とゆ子達よ討。一。何。一。ぞ。一。報。一。謝。一。
 侍りて。一。り。一。る。一。る。一。る。一。の。一。事。一。よ。一。一。圍。一。く。一。一。て。一。秀。一。長
 秀次秀俊とて。一。甚。一。く。一。取。一。立。一。あ。一。り。一。何
 せり。一。將。一。御。一。用。一。に。一。立。一。あ。一。り。一。意。一。と。一。ま。一。ふ。一。一。矣

大徳記

約小も符節や合すの事なきを以て呂后の
 呂氏を収ましく呂禄呂産を大臣に擧げ
 祖の子孫を蔑め王莽を王色王尋を官
 爵に定め克武の苗裔を亡せしむ卒に
 身のおこしとたり。氏族門葉皆絶ぬ呂
 后劉氏を収ま王莽君孫を守立おのれ
 乃繁榮も亦く傳ふたん物と今志を思
 ひ合ふまけ後凡て理よ背ふを憂るん
 兼えんとすまは必と亡ひ果る地たり。故
 叔山守道三和永淳正か弼之秀等し右

の通極は彷彿せり故に注しるるに亡ひに
 和漢合符之妙理心ありし人ての然哉
 付まじり。感地かあるも道人といふ人
 在るに一旦おこるつかりぬまに榮華を
 のこして天なきをまじりかきまじり必し
 天よりめ給ふと也。
 根を以て兵火并に石塚之事
 根を以て開山の覺録上人たり。佛は修の
 地には等厳密なりて殊勝よんえり。其
 武道や考り不用國司之不知文道。徒に

光陰不形 師進之 鑑戒動と進ハ 龍國家一恒
 中細云秀次ナリ。然ハ 振軍ヲ 難カク申トシテ
 十可騎被殺向副将ハ 大和久細言秀長 羽菜
 奉和因乃並 子石塔 積善寺 漢之城之今所
 要害ヲ 把握ハ 免カレ乃ラ 究竟之 鉄炮ヲ 製
 之 子石塔ノ 押ハ 秀次 積善寺乃 押ハ 中川
 忠告 勃大 物又 子 蒲生 忠之 良 徳ノ 城ハ 中川
 友兵衛 射高 山 右 迫 馬 小 入 子 今 何 升 順

共ニ 長谷川 五右衛門 堀久 之 合 一 萬 五 千 三
 月廿日 未的ニ 根 束 守 之 打 け ち 子 石 塔
 上 中 乃 鉄 炮 ノ 者 五 百 人 計 也 彼 勢 ヲ 撲 ぬ
 子 石 塔 射 子 石 塔 死 人 且 知 来 也 秀 次
 先 々 斜 山 見 一 千 石 塔 此 要 害 八 俄 に 振 付
 一 千 石 塔 振 付 事 也 子 石 塔 一 千 石 塔 一 千 石 塔
 一 千 石 塔 鉄 炮 ノ 者 五 百 人 計 也 彼 勢 ヲ 撲 ぬ
 入 射 事 也 子 石 塔 一 千 石 塔 一 千 石 塔 一 千 石 塔
 次 先 手 田 中 久 兵 衛 射 高 山 右 迫 馬 小 入 子 今 何 升 順

子許ハカリよて横ヨコあひに馬ウマと下入シタのあ度タビり
 刀ヤをて遣ツケり。筒井ツツイも台川ダイカハ堀ホりて先マと見ミて
 市の勢セハ用ヨウるりかよ見ミせり。子石堀シシホの要害ヨウヤクを
 攻捕ウケ事コトも多オホくそとて彼カと西ニに向ムクく立タて
 けし。早ハヤ秀次ヒデツグの先彼マ壺ツバと馬ウマと入イりて其ソノ百
 人のまう鉄炮テツポウと四方シヨウ八方ハツパウへ遣ツケ教ツケし。筒井堀ツツイホ
 毛モ吉川ヨシカハの勢セも同ドウく逃ニガるを遣ツケく。子石堀シシホへ
 付入ツケにせよと喚ウチ呼ケく遣ツケにけり。秀次ヒデツグの先
 彼カ何ナニの勢セよりも中ナカや。大手オウテの門カドへひりと付ツ
 費ヒ入イりて柵セキに多オホく二ニ之丸ノマル乃ノ柵セキと川カハ破ヤり。

堀ホへ飛トビ入イり攻ウケらりけし。弓鉄炮ユウテツポウと多オホく遣ツケり。討ウチ
 殺コロし抄例セウレイ。味方ミカタの勢セあつて討ウチは侍サマの要ヨウ子コ秀
 次ヒデツグも早ハヤ者モノ助タケよと中ナカへ遣ツケり。子石堀シシホへ
 物モノの多オホく。其ソノ勢セも強ツヨクく遣ツケり。先彼マ壺ツバと馬ウマと力チカラを
 城シロ二ニ之丸ノマルへ入イり。二百ニヒャク余ヨリ首クビを捕トて勝カチつと。首クビと旗ノボリ
 本ホへ持テせり。中ナカへ丸マルの堀ホよりしつゝ。子石堀シシホ
 堀ホの若ニガれ甲斐カハも揚イハ馬ウマく中ナカへ飛入トビり。見ミて
 遣ツケり。乃ノ本ホかけ枝エダの物モノけし。志シり。注ツり。あ
 勢セと侍サマの城中シロへ。能ノ利リ手テを。つり。つり。つり。
 括ツクり。射イり。子石堀シシホの勢セも。子石堀シシホの勢セも。

東一とらと堀ハ深一橋ハ川ハ中ハつとくハせんと思ハ
 ひ一とらに噴霧ヲ方々火矢と毒ヲ見たり付
 入也屋を焼立一運走を畫くあつらめ鉄炮乃
 茶箱子火入く子雷乃音して城中一時上烟燼と
 肉く子立百人余紀別よおめて勇士の譽ある者也
 樓亡一及落城なり城ハ二ヶ所のお城よわし是を見
 て良めのよ根をきこして落城なりと音告
 作垂るハ子石橋中く勞せし城ハ体息せよと新
 平方方騎とさ一ま一げ競り根をきこり攻破ハ
 一明のにもたつらハまなや即とさそと音告志ハ

ひの騎兵あまこおほほらけたり各たり良もら
 るど根をきこへ取掛んとハよも思ひ入一備と
 さゆ屋より音告一汗馬とるや折川ハ漸中
 刻よ成りりり根をきこハ剛勢なり隘き者二子
 余携とわ一石塔乃城目ニヶ所の要言へ終一ハ
 ところ目お老傳計を張るたり。御つあよる勢
 の旗首見ゆそそへんといせと唯人走よ
 返らん事と急にして。お中ハ何事の終よは
 おハそ雨にるぞ。推く持よまとい云あろよ内よら
 將軍の先機報あまの門およとくとと鯨波と奉

大徳のち申の面々もあはせり。度は迷ひ十方よ
 くまはちふ人攻入一か老は丘見も流と下の人
 年久しく住まき。ち流を折捨棘の子を殺し
 ころが如く。その多し海くなり形勢を氣とくあり
 たり。斯くしてちくに入ん事ハ伐之甚固至一か
 物をもぞお金銀米錢山を積りゆめくを。飽
 奪ひ取てけり。是より俄に地人と成し者も多しわ
 了ぬ。堂塔寺院一時の煖燼と成ぬ事ハ。方よ
 してあましたひくを。事多し。一日あま
 思ひけし。三日其方に亡ひ。事。空海上人の心よ

合ぬ所約もて斯ハ亡果ありよと。於邪の取捨志
 評曰。遇負業自得果。責事け寺のまに
 もあつさらや。穀山まも七理よ背を。大
 乃番はと不用して破滅之れと招き。又子て
 父母の心よ合く。信よ。主君此余と背き。
 自を冠し沈ゆ事。甚以多し。孔子曰。夫人必
 自侮。然後人侮之。家必自毀。然後人毀之。國
 必自伐。然後人伐之。と云。凡大小となく皆
 自業は果之。是よ遇と思ふを。

かくて難^{サレ}か^カ表^ヲと^テ可^キ殺^ス延^ビと^シ進^ム殺^スせ^テ獲^ケり^テ家^ノ子^ヲ
 大^ニ回^リ村^ノ子^ヲ捕^メ殺^スわ^リ一^ト揆^テ之^ヲ許^サ 洲^ノお^シ鉄^砲と
 舟^ヲけ^リら^ニ射^チけ^リま^シ一^ト道^ヲと^シ應^ジり^マす^ル。衆^ノ
 皆^ニ言^フふ^ニは^シ城^ハ一^旦に^攻め^テと^シ只^カ取^リよ^シと^シ
 て^{。二}日^廿日^廿方^止ま^りく^境と^つせ^テ野^野川^と
 関^入後^ハ一^月朔^日に^ハ湖^水の^波瀾^とす^る。
 中^ニる^鮎氣^屋の^獸水^とは^深も^たる^一魚^と
 是^レ一^多也^{。城}中^とも^は役^ノは^多し^お降^レけ^りハ
 捕^殺す^所の^年之^分と^者百^廿十^人余^{。股}と^殺人^ノ
 是^レの^案を^ハ知^ルく^洲様^照と^案を^ハ知^ルく^也

一^とし^て款^一の^洲地^をへ^き旨^にく^一揆^テ大^ニ物^を
 外^各々^とも^志ま^りる^侍也^{。百}廿^十人^切腹^一城^と後
 一^もり^ぬ。且^中村^孫平^次の^城は^もへ^きと^也。然^レ
 野^をも^とり^て証^一と^して^人と^洲お^勢を^へき^こ
 ち^も。新^文中^文の^社人^{。神}川^言と^海之^の長^百姓^ノ
 其^降人^と成^く洲^お勢^も及^と案^幕下^をん^と
 と^信言^中洲^礼も^案々^り。粵^も及^とく^然此^にハ^同
 役^おも^りる^も。然^レ人^若し^ハ事^おり^るに^はと^し
 る^り。今^日より^被成^信心^と案^園役^も案^々く^除
 是^レの^中旨^{。然}野^山別^當も^被信^事々^り

大司馬

上二

評曰。信忠公の時に之を不慮とす。斯廿日評の内小
 相承も難む。以能聖の中の一様。多樂くお
 るひけり。果敢決断の程よく。勤毎一見
 多一。又ありん也。周役不修しく事。表代
 撫人の賜有り。智勇力果敢決断之
 名物なり。

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○秀吉回國正治之事

天正十三年曆乙酉卯月廿二日回國正治とて来下
 美濃守秀長三好孫吉良秀次けんと別おと
 之。吉方騎と勢をお深お。廿五日正
 波美孫一翠白長。我部新志。新志。居城和
 氣之城と。秀次の先勢を。にけり。後ハお
 一。信守守と。あく。歩團之。檣梯と上。鉄炮小
 て射と。あ。院子。攻入。ひ。ひ。め。あ。あ。あ
 我と。横。大。人。甲。と。脱。と。請。一。余。と。居。る。は。後。と
 信。元。新。志。守。と。八。人。質。と。送。り。つ。り。

[Red seal or stamp at the bottom of the page]

助右夷討伐り。中一夷。大坂虎印の戦。上
 或國守人。是ハいつと久しくおまへ何と何
 らんと。さともく。いつくへし。さしとにさく
 し。くしあ。さる。と。ま。長。終。り。ゆ。り。し。
 如。ね。燕。に。さ。も。仲。の。評。極。さ。甚。兵。馬。討。い
 と。さ。う。感。一。ゆ。り。さ。惜。年。け。細。さ。ハ。武。勇
 智。謀。と。ゆ。り。と。世。中。ま。さ。り。士。さ。ま。を。右
 か。ま。さ。事。に。志。か。え。し。人。と。成。て。年。を。守。り。
 ゆ。り。一。事。

○関白職 再 家信之面々 任官之事

大永之始。中。至。天。正。年。中。家。國。分。離。一。の。威
 ハ。甚。に。其。身。武。令。下。御。に。極。く。成。く。ま。ま。く
 友。家。を。名。を。宣。く。為。祈。事。せ。と。云。あ。う。う。た。わ。に
 多。く。さ。と。ハ。推。う。知。ん。あ。ま。の。一。か。り。げ。う。お。す。
 信。忠。公。が。治。り。て。真。王。道。之。兼。救。万。民。之。苦。務。治
 ひ。子。王。治。り。且。古。く。立。ゆ。り。官。職。之。實。し。且。終。
 為。さ。き。身。一。一。洞。一。の。や。め。に。天。正。午。夏。の。邊。に
 職。せ。り。ま。し。一。一。四。方。惡。逆。之。徒。盡。如。雲。霞。降。時
 起。一。上。下。不。安。一。と。云。あ。吉。不。元。期。年。平。治。一

夏

加賀守將豊后利家

加賀大納言

三川守將豊后秀康

家康之弟也

丹波守將豊后秀勝

秀次之弟也

筑野守將豊后勝俊

友成之弟也

淡路守將豊后照政

好為播磨太守

備前守將豊后長登

信之之弟

三吉守將豊后信秀

信之之弟

津守將豊后信通

信之之弟

越中守將豊后利勝

羽柴之弟

京極守將豊后高次

好為若狹太守

丹後守將豊后直政

信之之弟

金山守將豊后忠政

好為美作太守

伊賀守將豊后定次

好為美作太守

豊後守將豊后統

大友

曾根守將豊后貞通

瑞穂之弟

松尾守將豊后長重

丹羽之弟

出雲守將豊后元親

長門之弟

敦賀守將豊后頼隆

鮮之弟

河内守將豊后秀頼

毛利之弟

丹後守將豊后忠貞

細川之弟

為狹

兼

法名

てハ吾氣色や取と。流るるを治め。好こ。者なり
そ。女ブキマウ乃小之り。治。前田博言院。立。浅野
浮正少弼。増田右衛門尉。石田治部少将。中津大藏。大藏
と。そ。戸。き。る。出。人。一。職。子。之。是。あ。ハ。毎。事。人
う。の。ま。い。の。条。

一 徳善院。信正。の。司。代。と。洛。中。洛。外。に。お。入。非
社。任。園。之。義。子。の。事。と。一。人。と。一。裁。判。下。り
一 中津。大藏。乃。方。と。中津。大藏。乃。等。之。義。已。之
任。と。一。裁。判。下。り。は。之。事。

一 之。ハ。美。徳。之。院。上。の。院。の。法。人。に。お。入。り。と

一 別。を。大。大。の。事。に。お。入。り。と。あ。お。て。ハ。立。人。と
一 之。と。お。換。へ。る。事。に。付。て。換。一。下。り。之。神。定
一 之。事。と。ハ。一。人。と。一。人。と。も。同。一。と。す。
一 國。之。取。出。法。に。お。入。り。之。義。早。速。に。換
一 由。新。を。寫。す。事。
一 許。多。く。義。に。付。て。ハ。心。を。虚。に。一。同。に。す。
一 富。威。道。徳。り。た。る。者。と。才。勇。不。足。に。行。て。非
一 負。者。の。公。事。ハ。不。重。重。割。底。同。迷。を。て。不。重
一 也。汚。名。一。の。立。之。事。
○ 宰相。有。司。病。之。免
宰相。ハ。日。中。之。事。を。の。仕。ま。す。や
有。司。ハ。少。少。の。や

才一私欲依怙具顯負

才二以私之宿志報寇事也いそく其謀りを

起て漁く川上

才三金銀と蓄へる酒宴遊真外固を云

女色羨食等

右は病根ハ貪欲と為事ともやけ病根と愈

精しく取りあひ言仁愛をす細一し

と。事とを巧之をわく候し付てそ利をば

或代受等百姓とか入ま

苞苴或は社飲或富家之懐をけ華し付ての

膏合ハ小かゝるものと云は細魚くさま

之通隔なき事肝要也

浮回まの之内に取之長にあて他信を交

人交魚流ハ奇妙に笑之傳りたる

ハ事おと才器と撰く人おあて親疎を不

撰とたり。是も依く事おのりてくの人と云

其才智之的ゆるれハ事およハ事お職上

推任キと也然し固くほきとさうさおと人

多うりーとくわ

此日よりけしき清気交なり。大なるけしき清院一
 人の家と定めしけしき宣ふ交ふなり。この同
 所とんとせし事切しけしきたかされて此事也
 とらや。此山九水之人の土佐之山中一分入て材木
 とおし。流多の河へはとせし船路尾流三ヶ所人
 この本多山と材木とあし。河は流し入勢別業
 名よ令是澤。そより大船は積置南浦大坂よむ
 て使善院よしおお後育るなりをり

一 大仏地起之事

五畿内中国之く大仏之地起石垣築山等く

善徳可お勅旨被定より地起す。大東山仏光
 ちるりけしき。使善院善徳町場と後一作り
 ぬ二十ヶ國之人教と地起と石垣築山。三のよ分被
 作りし。石垣大さうちるり。この國へ。坂の河も
 石垣よかりぬ。そよ水田現とも加へてせしめ

一 佛像之事

大仏と首の板よかりぬ。ぬきて鑿ちる。この進くか
 来るんとそ本像よ物し。漆膠よてぬり彩色マ
 中首作る。震且し佛像作り。其後よ石ら
 しと叫ぶ。世同れぬ。其朝よて大像し仏とハ本

普

築山とつせ虹梁をくもはま車にて回一引上毎
 り昔より白地なる車た多くもぬふ人許し
 上る虹梁と百人許しと車と回一引上より
 一 四方石垣と車

始ふる石をそつせ流れた法裏に及て石と
 小ぢら盗丸小使も安る人しとそふか大を
 石にきて築直し流り浦せ飛驒川石ハ
 二るに回るも一ふ多勢と引ひりり石とど
 ひとたそそつせ流る本やつれとんとう取
 小お一引ひり人おのそ積としとけまぬ許

也。白川乃松くより大仏も對する。及七日眞山上人
 人毎日子人絶法丸作る木に流るひく自守漸二
 子目に及よなり。ばらそ人よふ百人。対株木ハ本
 山飛驒山四圍九ふよあらし一六富士山とせ
 め多しよ。株木あわり。即大工は株梁とつらさ
 世路ハ株木にさる人よ首江をり上る。即家
 康ハ被作付さらせつ。熊野浦一廻一太板よ
 取あり。一本一本五千人黄金子あれ入用。そ
 ろうしとらや。二道よりして大仏成能。積るを
 流る。是より流れ伏養とそそせ給すそけ費ハ

隔

一とらりるに申くその禁及へるにあ
 してきて肩とむそめになり
 或む人見を根費万民之勞といふせし心
 又海をてあけ給ひしと勤ふるに是れ
 にて秦始皇と吾朝のくは秀吉將軍が
 け末のくはと給ひし二にいで後給ぬ
 大徳と建之―莫右乃利益をやくに
 人とも万民がくめくはやくめい
 なるめとの道二人利益は給ふとも
 所との雲は無海せりとて打ふは
 杖

小をのきし進行のあま
 人をへるなり又或同くわ
 ありはあらしとて愈へて
 下しともあまは学校をて
 國病ともしるれし形
 治とほりも及へる
 病不愈

○北野大茶湯之事

十ヤ子

三十五

天正十三年十月朔日北野松原よりの茶湯と
内奥の茶部郵教考志乃気味或風情或
茶具考と一併なるものなり

これ

本十月朔日北野松原可令奥の茶湯の考
干也賤不拘干多富らよ之面と来云可程
一真襟の良簾好侯幼管可申の考若教十年
未至一徳乃具かより五とくき乃茶を
以身て見物考也

八月二日

洛之上下奈良場もまよりの一徳と記乃
面は是八目出沙代よあつて價考とるを
取乃一又徳と記の名考とて達とんと悦と
之洛中此と記やハ右候と丸考若云此感
之記乃場乃すき考と一わて當て考此名
人考と記さんと巧とゆりもる

評曰。右より場之南北より秀考る教考志
多く有て洛中此と記と蕙と下り思ひ
察すりに洛中乃すき考九ハ。於矢曉一場乃
町人武士此風情よちりつり一丸又場之

象牙茶抄

如の蓋蓋

紙鷗水龍

水釜二あし

五徳の蓋蓋

せんろう香炉

徳前竹乃花入

志賀

めんろう

りあし水龍

やうろう釜

芋駝

柄抄五批虎

緑桶

胡批の柄抄五

朝山

四十石

新田肩衝

をとこせ

五せうけ天目

折あし茶研

升戸茶碗

右之清乃色太紙あまの所庄美と志つる紙紙

少之り所り紙ひくはあまぬくん物をい

目紙焼りし軍多

二番 千宗易利休居士 三石石下

烏丸香炉

拵子 茶壺

尻膨

あしぬら縹

一 細標

一 ぬらぬら

一 信乃鏡

一 ありん

一 せめひが釜

一 塗天目

五

大同元年八

小休而養之其時

○天正十一年城主定々

秀吉の志を以て小國と征し

威海外に溢す。一力國の身權何

と度々。湯子御目か。以て使者馬石

と欲し。其の如く。使者去。其

終く。其

一。小畑中侍信雄。南伊豫。其部。伊賀。尾張。美濃。

清例。と云

一。畿外。松碓。と云

同。信

津川。空齋。元

大同元年

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

一尾列星橋城
 一曰大山城
 一曰新安城
 一曰別宮津城
 一曰馬島橋城
 一曰波
 一曰新島橋城
 一曰新島橋城
 一曰新島橋城
 一曰新島橋城

同片 岩田出門寺
 同片 中川勅右馬守
 同片 淺井田文丸
 織田上野成信良
 同片 淺井田文丸
 同片 淺井田文丸
 同片 淺井田文丸
 同片 淺井田文丸
 同片 淺井田文丸

一曰波岸城
 一曰新島橋城
 一曰新島橋城
 一曰新島橋城
 一曰新島橋城
 一曰新島橋城
 一曰新島橋城
 一曰新島橋城

同片 岩田出門寺
 同片 中川勅右馬守
 同片 淺井田文丸
 同片 淺井田文丸
 同片 淺井田文丸
 同片 淺井田文丸
 同片 淺井田文丸
 同片 淺井田文丸

とみへ。必老長船紀修寺。戸川肥後寺。多岐
 前守花房助無信對と。と。喜お保り。つらハ
 秀吉の合戦より。國々仕至。毎地。と。此。川
 や。城。家。新。よ。り。く。天下。休。色。下。申。人。あり
 け。人。よ。多。一。家。運。と。さ。る。包。忠。切。多。人。く。の
 芳。城。補。し。美。氏。と。推。育。や。ん。と。さ。あ。あ。に。と。
 豪。よ。は。一。く。ら。よ。口。老。守。り。信。を。に。去。
 たり。と。せ。と。も。大。切。あ。る。子。を。と。人。質。も。輝。光
 る。に。く。り。と。さ。く。あ。る。珠。も。あ。り。く。儀
 儀。も。い。く。に。あり。く。信。ぶ。う。や。と。し。け。れ。も。

予亦びとと此。と。は。く。多。用。於。膏。髓。り
 徹。一。珠。も。さ。る。よ。と。西。よ。を。人。質。ハ。五。人。也。
 西。國。子。を。又。母。兄。弟。と。う。が。あ。れ。ハ。百。人。よ。及。り。
 人。と。於。百。人。と。助。け。ん。を。國。守。く。鄭。鬼。林
 色。悦。び。さ。る。り。一。実。明。由。能。く。理。病。人。と。推
 正。ら。る。君。多。く。業。あり。所。給。直。家。を。明。理
 下。推。美。氏。と。一。け。我。と。う。い。き。と。理。と。不。知
 者。ハ。人。質。よ。付。へ。西。へ。集。ら。へ。又。以。恨。あり。
 早。い。家。や。の。五。條。有。る。り。送。届。く。る。り。と
 多。り。と。皆。直。家。よ。り。一。け。り。と。さ。る。り。と。

物持殿より出てゆくやしもありと云。
 一信長公の御り刻 カキ 之古しと申す。和漢に掃
 ろうりさきまよて初合しも及も也。終と南の河を
 さりむ。水は大道東の某西の某く河にまきり
 可なり。いふは信長のよまて一河に カキ 河と
 終りも多ふなり。天下且信長は國風と因
 三河よりしていふは信長は有也。
 信曰。開闢 カキ 亦兼他の國よりして合戦と挑み歎と
 付平けくもやそり國を海にく。退治
 也。一人のうら。當時味方と云。一つ者よ

代官と一國と記を 置 一國と云。其切を
 各々異なりて果して他之國と又成海と云
 信長公よりて國と成海と云。其切は
 波刻より別國あり。其切は カキ 也。ててて
 其切は カキ 也。其切は カキ 也。其切は カキ 也。
 信長公より初て今も幾子及り
 一秀吉公因縁く地味なる語の カキ 信のたぬ
 何し。主の爲し。其切は カキ 也。其切は カキ 也。
 向福山林は海なり。其切は カキ 也。其切は カキ 也。
 也。其切は カキ 也。其切は カキ 也。其切は カキ 也。

一國と云

二

改下と申はるて。何事と云ふ宮六さし
万々心下ねを。好くふ所法改約入好い
後~~~~

八月十六日

吉田修理亮

抄紙前ハ物と申見し。只ハの外あり君よ
さしふ息言と申君の沙心と申経事ハ
もつしと申。身成貴丹三毒西よ及志尾
列丹西三川。小仔後の内よて。八百石城ハ
霧梅経と申。持と申。降了じア。ぬや
よ初り割と申。は。一。年。固て。経。心。

手換

一作
三州
作

内少抄抄と云ふ。凡経人経りき。

孫曰。欲んハ。願ハ。て。天下ハ。法と。云。ん
君よハ。子。り。子。け。さ。味。こ。ら。に。固。て。表。吾。
公。と。内。心。ハ。折。と。け。さ。ら。し。あり。寧。ま。ら。し。ら
ハ。不。及。よ。ま。ら。し。と。ふ。ん。と。ま。げ。ん。よ。ら。し。
経。や。り。よ。さ。さ。さ。ゆ。る。

一羽宋右衛門玄利家ハ。知り割。き。古。し。あ。つ。し。こ
身。あり。世。俗。撰。と。解。と。あ。ん。口。号。こ。々。わ。た。と。ハ
會。決。く。可。の。を。き。一。ま。あ。ま。の。ら。あ。あ。く
皆。結。く。よ。お。た。ま。う。ら。城。下。と。知。り。よ。お。

ゆりーハを身古地未だなく。く士球おーる
子固てり。然も存多多く集て。寡少の多と
碎ゆりーる。あまうてひくありしと也。
諺曰。何く面く初りよりと独は法やーと
昔の侃一ぬらと色村家とよまらんや下よ
たうらんや
傍人曰。能也と撰三よりハ取てあそ書にの
うーと。さく人月あつり時公のあらんや

大田方ノ

○作く内苑助勵真忠言中しさうく述る
杯作く内苑助勵改元之。尾陽春日并部平之
宣わう。そ後信長公彼對平部中守羅とん先
君の恩也と不意しと。一と也信雄心と秀吉
及詳精あうしと。信雄心と味子とあし。部中
あしてあ兵と強し。秀吉のよ敵對あり。天心
十二年暮月下旬深きと。さうと。さうと
うそと。陰謀とあましく山路と川建ひぬ。是ハ
何の比とさうと。忠告とあましく。堪ひしと。古
同しと。遠別へこそはああ席へおあり。其

大田方ノ

とをきく

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

規

也

肥後一接蟻起作と道沿と事
作と肥後國多知と時。お介条と割書と

定

- 一五十二人の國人女先規多りてお後と事
- 一三年和地をまゝと事
- 一百姓等も痛恨と所多と事
- 一接とこととやうと事と遠と事
- 一上り普語と事と先許と事
- 右之條と事とお遠と事とお守と事とお也とお也とお件

天正十八年六月二日

赤谷三浦

作の内務助

肥後國の領土を抄紙し。國言を以て脇指再小神守
重抄^{サテ}別書^{セテ}とし。ついでに。うき。内務助
高島才次郎と約し。うきをける。肥後ハ思く外
大國より。一萬七千石。きんぎょ。さくさく
作。思ふに。於て。國語を以て。妻於也。
甲斐より。一萬七千石。さくさく。さくさく。
休ト付取つ。以て。妻く。田島。欠取と記し。付
し。別。今。此。以て。萬石部。兼部。の。領。由。を
了。す。う。括。別。ト。す。ま。り。多。分。と。を。約。す。い。ま

指 巻

大

若 前

不承。一。と。作。新。儀。と。し。い。ふ。た。り。申。上。り。を
以て。國人と振也。幸。に。日。吉。と。言。ふ。事。合。也。と。し。て
終。と。し。と。し。の。廻。文。あり。目。限。の。領。也。何。し。國。人
事。の。多。分。と。し。也。兼。部。と。し。不。承。今。也。事。の。約。し。人
御。食。悟。流。り。於。此。と。し。也。一。と。し。御。一。と。し。於。此。萬。石
部。人。領。領。つ。り。一。兼。部。と。し。二。萬。石。上。言。は。し。て。作。し
と。し。其。の。封。久。世。之。物。也。形。と。し。あり。言。ふ。三。回。封。領。の。事。を
と。し。將。と。し。て。三。千。餘。石。天。正。十。八。年。一。月。二。日。吉。野。院。者
多。分。に。承。り。て。さ。う。さ。う。さ。う。あり。は。り。領。を。せ。し
内務助。を。以。て。幸。白。と。し。一。と。し。也。終。本。と。し。り。終

大圖凡八

十八

たと思ふ國は強人強人よありまう。先主勅
ク力上とお果し。久々お果し。一不忽命
地と改易し。内苑御勞長を子孫めせしん
す疑をなす。然に各地付城く善徳と名勅
めける。縛し責と見及ぬ。比美於河内自着
は夜とけ拂心。終に之を為し居く。疑は
ててあそく。糸急御掛攻り。必城とくまいた。
たしあし。内苑御定て。後攻とんと急し。降陣
まつ。糸御路く。下り。節。下り。伏兵。付着
ん。疑をへ。と。右。趣。回。く。

多分有く。中。通。之。城。と。ま。く。め。つ。り。
分。何。を。回。り。し。ま。ふ。く。國。人。也。内。河。内。
善。徳。公。を。わ。ら。う。く。り。し。け。る。を。衣。巻。く。り。
拂。し。し。り。小。基。下。總。と。ま。し。者。の。と。指。紙。は。
伝。ま。す。の。ま。り。や。わ。
評。曰。多。は。勇。士。の。と。花。し。智。士。と。稱。せ。ま。
呼。ん。ま。目。と。ま。又。大。志。あ。り。く。り。ま。や。比。満。中。
と。ん。總。多。之。國。人。と。一。時。は。變。し。内。苑。御。
と。痛。し。り。割。後。切。腹。ま。し。を。皮。智。士。が。
三。す。く。舌。と。い。り。や。を。勅。り。然。し。比。智。士。

とわし—んあきや—いよ老とあきい—
とあき急難とあきのいとして、徒らに

○怒中—城作—後攻—

山家—付城—吾後を未成—國中—撥—
起中—わうめ—切分—わ—う—ま—怒中—
形勝—利本——あ—備陣—後—一撥—
万路—も—あ—南—北—と—あ—重—
い—あ—い—と—あ—北—つて—後攻—の—年—と—
て—折果—と—二—ヶ—所—之—付城—の—三—回—討—

あ—の—の—と—い—と—あ—
—と—八—七—里—也—
赴—と—は—く—ま—あ—け—め—と—伏—兵—と—わ—う—ま—う—
あ—
難—う—ら—そ—自—の—言—不—し—
—と—い—
と—大—將—く—八—
—と—あ—
—と—あ—
と—ん—く—や—あ—

いやしくしつらふをて免すも過もやせん
 只向^新むなる茶うと山本陣と名て守らる仕掛
 て合戦也と云。松原の兵吾備休くらふと射
 と付しつらふと云も仕掛敵も云
 川連^連もつらふも云と陣と保て海軍
 山城と攻めし甲。いづも云とあ人様
 と云はしつらふも只改炮とつらふに
 競^競と云突^突しと遷使^{遷使}も云合^合しと因^因
 抄^抄國^國の何也。ら改炮とつらふを解^解けつら
 げ^げ噴^噴くつらとと。噴^噴と突^突つらつらつら

敵中可^可なりをわし。味とてさしつら
 付^付し。種^種とつらへく。敵^敵に戦^戦を改^改し大軍
 と追^追敵^敵し。唱^唱凱^凱歌^歌く改^改大利^{大利}とつらと。城^城と
 圍^圍つら海^海のわし。毛^毛甘^甘くをの攻^攻口^口と圍
 しつらと。いし。いし。内^内院^院のいし。海^海軍
 突^突つらつら。城^城中^中より。神^神保^保あ^あ。先^先陣^陣中^中
 突^突て。あ。因^因介^介とら。操^操合^合。右^右の。一^一追^追敵^敵し。
 首^首子の。百^百余^余村^村掃^掃と。線^線波^波つら。是^是の。いし。
 中^中の。つら。八^八い。つら。圍^圍て。改^改炮^炮とつら
 時^時つら。と。や。つら。い。つら。改^改炮^炮とつら。い。

手とくしく

3

即ち送る有之由。摺紙と持来りし
 中云けし内へ内は助射面し。然るに幸
 とハの如く指圖なり。其家丹忠不て言ひ上と。
 車外懸入や。らとて其指有る。さて取り
 へ急を言首としく行く折言して申り
 かりし。晨鷄をこよと云り。東方より
 雲引し。敵味方陣仍と云ふはさか
 しくは字續亦人と呼て。組織たぬ乃方へ急を切
 て出よ。中黒旗物と云う。敵ハ味方と云
 一老也。牒ト合也。軍せよと陣と云ふ。

一と云ふ事お付ら昂来り後。けし。皆
 速打もおおし。やよ。乃方と困。勢たのき物
 して。字續と云ふ。か。と云ふ。や。身と云
 立。味と。向。成。作。り。突。つ。下。と。依。り。知。れ。ば。
 案。積。裏。の。謀。叛。出。来。を。て。敵。と。射。首。は。捕。り
 たり。一。捨。棄。乃。き。こ。り。こ。り。の。海。せ。り。と。云。交
 斗。め。く。我。さ。は。よ。と。逃。る。や。い。然。し。度。よ。海
 斗。い。ら。形。勢。あ。る。と。速。付。追。也。一。勞。せ。ば。此
 斗。に。首。捕。り。を。以。て。者。先。少。り。ま。い。り。お。も
 及。ん。び。と。ま。ま。分。捕。り。各。い。と。つ。あ。り。や。

大田

三十七

一、^カし。ゆめはあつりぬ。笑つき。其志はつらう。ぬ
 一、^キ程進うらにせよ。一、^キ校原八目。一、^キ合せ
 一、^戦多し。事ふむ。物ぞと。軍法。以破て。少。其。由
 一、^イし。け。中。に。悦。ひ。馳。り。揚。ひ。る。介。の。を。み。し。よ
 一、^カけ。う。て。の。物。頭。た。と。わ。の。め。付。ま。い。ん。進。い。三。子。二。百
 一、^フ十。余。り。作。と。翔。ひ。と。う。う。り。や。あ。よ
 一、^ハ伴。日。作。と。毛。毛。と。厚。恩。と。不。忘。信。雄。つ。よ。射
 一、^チ忠。義。を。少。し。か。く。有。く。業。へ。さ。ら。り。不。震
 一、^タ類。く。八。内。義。助。大。志。あ。つ。り。人。を。れ。ど。一。世。信
 一、^東雄。へ。天。下。は。し。り。海。り。波。の。り。り。と。れ。が

一、^カ執。持。り。一、^カあ。ま。い。ん。天。下。と。錦。香。さ。ん。と。や
 一、^カと。ま。つ。し。ん。秀。吉。を。け。格。は。そ。ゆ。ら。り。あ。り
 一、^セ後。絶。や。一、^カ固。之。且。一、^コ心。結。百。一、^キ程。忠。義
 一、^カ美。あ。し。め。一、^カ之。業。よ。あ。し。ん。如。を。

大國記卷第九目錄
 信雄ノ与秀吉ノ及梓楯起之事
 尾列ノ大山之城落石之事
 秀吉ノ尾列ノ取勢之事
 池田勝入ノ父子討死之事
 秀吉ノ小幡表所ノ取張之事
 秀吉ノ十二百騎ノ之安ノ打細治事
 尾列ノ龜江城之事
 秀吉ノ重ノ尾列ノ取進發之事
 秀吉ノ小幡勢ノ表所ノ取勢之事

大國記卷第九目錄

信雄ノ与秀吉ノ及梓楯起之事

尾列ノ大山之城落石之事

秀吉ノ尾列ノ取勢之事

池田勝入ノ父子討死之事

秀吉ノ小幡表所ノ取張之事

秀吉ノ十二百騎ノ之安ノ打細治事

尾列ノ龜江城之事

秀吉ノ重ノ尾列ノ取進發之事

秀吉ノ小幡勢ノ表所ノ取勢之事

之城上と下とと強動一資財新具南去少東
 乃有之處とかり云ふも及りし頃。其門守舎東田
 勝め良後号侍門葉して侍ら坂井下総守其東赤
 川越尾清射林宗右忠射那須十右忠今才彦治良
 那須重十人佐山口守左忠射森田重彦四良等々味
 重男云やうふ。乃強動との心一殺せし事な
 多し。長崎之津場を預て守事なむじぞがし
 長門守はひこし武勇にまじり深るし事侍
 之存知之事也。然し幕合戦のち各揮一命守
 義之由は音城と守り治州へ三十日たりし程

らハ秀吉合カ志多しと有るふ。其日義と答
 あり。必し長列射一朋友の固を年久して況
 今ハ臣とありぬ。何ぞ一命を惜みしんば者たり
 おわて。今義と射一若戦之あし可逆討死に
 然上ハ人質とせ丸へ入らんとして。不詳事子然入
 者り。山口ハ其妻長門守妹なり。固く母と好
 侍ら。其に何とやらん氣味あり。者し見えて云。是
 母ハ赤宵燈火田一系りいり。今曉しり虫さし。其正
 祈由り来い。其後夜赤丸一系り色しんとなり
 是よりいし。城中に物とせ。やりま。次。明日

桑山に母を失ひて捕給ひし事と云く
 く云なり。迷惑なりより。また遠村云かぬ縁の良
 伯父良縁和尚。山口に向ひてを遊し。被りまらる
 ハ汝は某田修理元元厚息子沃。あり其合我母も
 忠死せと。落武者之身と成て返し。を失ひし事
 子極育し。其方乃りし。其惠を。ふりひし事
 里。を復五千石之地を施し。菜花に足んえ門
 菜子と云く。面を。あ。う。ゆりき。木を。に。生。つ。か。成
 して。兄弟之固と。変し。母を。失ひ。人。相。成。し。い
 ぶつと。置。信雄。忠義。一。世。成。し。思。ふ。事。を。

利一は。去。有。守。め。と。士。と。て。左。極。く。義。理
 と。変。し。名。と。汚。し。推。り。業。人。侍。ら。ざ。や。汝。が
 屋。う。た。り。士。高。生。の。名。を。出。久。と。て。城。と。出
 一。あり。良。縁。和。尚。言。の。と。く。果。して。秀。吉。公
 義。と。汚。し。事。有。く。秀。次。沸。切。腹。之。刺。生。言
 せ。其。功。給。ひ。也。

評曰。利一。固。く。身。を。立。人。事。を。根。拠。し
 好。む。者。ハ。義。と。争。て。不。志。り。多。し。一。以。類
 者。ハ。皆。不。合。平。天。之。也。人。の。身。上。ハ。利。害。身
 胎。じ。事。有。付。し。他。林。案。之。已。ハ。志。ぬ。也。

なりき田地の中人以下なる人——中人已上
いよく知く政之

○信雄郷と秀吉と及洋楯起之事
信雄は三良と生害——治は八羽集瓶前守
は久侍り忠者によつてなす。然り秀吉
より其とがめを命じて徳河三河と康々
池田孫入 森武藏守をもとめたの三割り免
とれり——使札を信雄より被召入けしは家
康の心同心も之を承けし——治もやりたり

井ノ原

池田森かへり。秀吉より入祝お入る方尾敷
甚右衛門との被作入りて池田を信忠公御
厚恩を蒙り——事なきは及是地と少
信雄への味方子系らるる石計事なりと
片桐子向ていへり。思ふごとくお候も。甚右衛門
里のくまをいへり。存る。是理之由然
也と感——つり。伊東清兵衛封じしとちやけり
。秀吉と年立方の河と国も——見も——
作。徳大名とかくくにて秀吉と武略の
煙重とあらしむ。秀吉のかつてましく侍る魚

七國記

手紙

是くの如く。然らば後天下乃執權の秀吉に之を作すべし
願ひ秀吉に之を力とせしむ。是れ能くも目か交り
一切之志をせしむ。執之を力とせしむ。報しめいふ
公望しくあり。まゝいりんやと。衛より勝入し
し凍もせしと思ひ。勇をりし。二つと。思ひ。勇
心。播磨乃手子似る。か。家。忠。に。秀。吉。より。勝
入へ。津田隼人。佑。と。使。志。と。せ。被。甲。も。り。流。瓦
二。三。ヶ。國。を。領。細。せ。り。あ。る。く。い。る。あ。り。て。お。逢。る。を
へ。つ。つ。と。心。越。上。其。の。控。紙。下。甲。より。清。兵。衛。の
秀吉に津田方と取持けり。三つ。つ。の。救。勝。入

手紙

と良久く。審法シツタンの事。多て。國。奥。の。事。より。お
て。勝。入。の。秀。吉。方。より。一。寸。被。甲。自。り。換。り
ゆ。り。ゆ。り。披。露。も。り。ゆ。り。津。田。相。取。り。義。と。お。り
信長公の厚恩と。是。事。に。秀。吉。つ。し。忠。あ。り
ひ。の。事。人。全。を。中。法。の。の。来。り。ゆ。り。一。さ
事。何。れ。と。肩。と。頼。甲。り。ゆ。り。又。家。康。つ。ハ
池。田。よ。り。一。義。の。女。と。あ。り。と。せん。と。そ。と。月
十日。正。午。尾。羽。清。洲。一。信。雄。つ。と。見。由。あ。り。て
秀吉當國奔向あり。女。取。ひ。ま。い。せ。申。へ。し
所。心。と。安。し。と。力。を。付。め。つ。せ。由。立。日。改。國

一 治ひりり

○尾別太山之城落居之事

佐々木元盛之幼太山此城に一万貫之地をおぼ。勝
之席に被下。普請等之太史より。正
之正九年。正十年六月二日源
三郎俊也。織田源三郎俊
信雄。尾別の大守と成あり。信之太山之城
まことして。中河勘右衛門尉とす。とりまきあり。

添

大正九年

六

三

井

勝別嶺之城を番守する中。傍入打寄す。太山
之城。苗守居たり。なる事。天を。与ふ。幸也。
田園をたれむ。太山町人。そ。乃。親と。志乃。其。
目。三。を。は。り。城を。可。親。才。子。親。
入。中。中。則。同心。の。後。十三。日の。夜。
取。を。入。り。引。入。て。中。の。必。法。人。教。を。お。さ。り。勢。あり。
者。り。り。ふ。さ。げ。を。法。人。教。出。り。り。ら。る。る。り。
を。や。お。り。り。ま。さん。と。く。人。質。二人。後。り。り。三。
月。十一。日。乃。事。の。又。目。を。太。持。へ。押。し。付。り。ぬ。
傍。入。を。中。打。寄。て。お。り。り。と。り。た。ぬ。あ。ら。り。様。ひ

大正九年

六

ぬふ事かごらりし。おきて陣少しはなれり。ゆ
 後十三日。東より徳川向く。同日小塚陣と
 くい。桑腰ヨシヤナのころ。陣をさしよとあり。十三
 日大塚をさしよ。打撃あり。少くは降り。乃ち
 より。小船を救多アタタあり。東よりしてあり。是
 を池田紀伊守。獵取を十艘。陣つ。大塚の
 降りへ。さしよ。はつり。東より入く。ば使
 番乃者。向法務。守り。乃川より。陣を
 降りる。東より。はつり。さしよ。乃川より。陣を
 けり。是乃時。はつり。さしよ。紀伊守。十艘。乃者

子。赤く。河を。渡り。城へ。思ひ。凱歌。と。唱
 せ。城。中。思ひ。を。し。なり。あり。十。方。と。
 せ。そ。を。し。な。り。東。方。向。を。あ。せ。り。は。つ。り。者
 や。取。逃。る。者。と。八。代。給。に。なり。勅。右。軍。射。り。叔。父
 清。茂。を。囚。へ。搦。十。又。字。と。切。と。回。り。八。字。と。遊
 回。し。た。り。せ。ぬ。勢。入。替。と。攻。入。孫。子。清。茂。を
 とも。討。捕。て。あり。か。と。り。池。田。又。子。城。に。入。り。て。は
 十日。乃。新。町。人。と。な。り。乃。長。百。姓。の。刑。に。入。り
 城。目。が。あ。り。た。り。ま。せ。と。り。税。後。と。上。上。橋
 者。を。持。ち。あ。り。ま。り。後。と。り。翌。日。十六。日。卯

之刻子池田父子小牧山道名をよむく勝をか
 一とむく西と石筋一とと教火引ぬ
 くら信雄の家康の清例乃城にして十日乃
 教軍評定をきく明日も小牧山おておる
 山を城に拵へ秀吉とと急向よれたるて三日及
 射陣ど乃事なり十日午刻清例とあむ
 小牧山と心こころなりは道名をよむ高て教火
 乃煙雲天。鯨波乃あう動地板池田城動
 よむくあそをききと。鞭をいやり急しつて勝
 入ハ人救を方こへ分はりり一。一時は信田早

速打てたり。ゆゑに清例より率二万騎小牧山
 着陣し。とと乃長百姓をいひ呼出。池田の動の
 極みと同様ハ已之刻斗小三万七をいひつるん
 えとと教向。ひ分してあつと教大。はる勢と
 打へゆりりと急へたれ。信雄の七家康の是
 拵とて悔ひいへんかひえたり。是とと急よ
 といあめ十六日之早初急く勝と押部。大山は
 て打く。樂田羽黒丸を丸色に民屋教大。一時
 乃教と率一とと。羽黒の八幡林。是武蔵尾
 坂甚大層の射陣とゆ。鉄炮足懸る。とと。

と。奥平九八郎信昌後号大伏大伏賀又良左衛門尉柳原
 小平吉母羽助介お是とんく。隔小川ヲ分セ送下鉄炮を
 敵一。後割河ヲ分セも武蔵守の役番とおなりしてわさじ
 羽藏の歩者十々人馬はまうりひりつ里ころ武者
 一隊陣のあて再三の廻つたり九八郎おとんく何
 振らば武蔵とみこりわさじころおとんと下知と地
 けさの馬上の侍九ひしくとけりま。鉄炮とひば武蔵
 ところあこと敵おのりおは立時よむとくくころ
 けり九八郎も勢僅ふ余軍。川と越く武蔵
 ちり三子許しころころあつころあつころあつ

く心。敵陣平に上畑と立挑戦。森も心剛と能
 勇士多しわけきと味方急し。標立ころころと
 立ち羽黒の川に引入ると息ともしれどと山
 近邊せんよかゆけり。敵もく敗後。
 家一ころころあつころあつころあつころあつ
 せり。大伏賀柳原あつころあつころあつころあつ
 ぶよよのて。あつころあつころあつころあつ
 りに派とめりり地加りぬ。あつころあつころあつ
 ころあつ。敵は派は失い味方ハ派力と地勝し。あつ
 北の派は追羽と山の東。あつころあつころあつころあつ

死して申。あつとく残と合せ敵ひ討死とそと
 了けり。毛子遊呂助三ハ養くもあつた。又六町七
 近一もよ助た事の討る敵乃をんこり。助三
 呼寄て又のり来いよとそあ母。しほはひきき後
 とるひ。はは志さうくえおしりく返給ふと敵
 六七騎進しげ。山さうらけろく母夜武者れ。おん
 ちりありを。野呂助た事のもていふれ。或も後
 とんを作志。引也一勝負一返へとる一
 やふ。いゆ力に死んよ。あ大町等と討給。面も
 かつと引也一討死一返もいそは返とと孫

著

云

是はと乃進かおかよ。似合さうそと。是れ後
 とる事れ等。汗中と母の方とそく。中村よ返一。
 何も返ととそん。助た事の討死にぬるおんこ
 一申一引けし。敵る。返を来さう。より合
 加ら不返一合也。先よをうらうらと息とそ
 さい突あ。いひ移ら切えたり。助三ハお堂一
 人あうく。走る。湯もうらうらとそ。いひます
 ぞ。もくや。あ乃きいんと。再ニハせた。このきハい
 さいと持て。武列よ。んをととん。残と持て。あ
 くとて。これ等ハ。おを。あよ。十六七騎進しけ

来りしと二人決さるり。矢後より股とす。生
生決ま付れより。大山より勝入父子猫系伊
与ち息名宗亮。那よるあきを敵合を勝三
万兼勝。大山原の下小陣と備合をけり。武蔵
と敗水のよとす。是よりかひの合戦と桃
と勝負と勝入身と打つて。いとも相や
む勝入の陣よかけあさり。あはさるい来る旗
よかりあ利をけり。い勢とよれ候へり。あを
陣と備て出ゆ。敵勝よ棄くかり来る伊
り河。けり合戦。い備さる。十小八九勝利と

けり。いどいどむ也と候の上。勢と列上り
居り。一番合戦とん猫系仕とんと勝入と丸
二の三のつりくとあり。老の彼よ血付川と湛
るんとす。大よ英一とあ武志先も一きハ浮
やく出でけり。あ康の敵候乃上へり
上場と備へり。候す。候して我先勝の志と
凱歌と唱へり。と列丸とて九八節とて天野
依在事の射あは候。割とけり。あやうと
河とあは候。候の上。候よりも河と合
り。かて小牧山とて勢とあは候。候り人

之し小くりそ勝ふは大軍カウテにわたりあふ
 死也。家康タケナカは武田と年久しく戦と挑チカを合カを功
 莫大也カクタイ。も武功乃行カウは森も深くはしり。羽
 黒乃卿中カウ小をてり。鉄炮と半シゲに濃シゲを付て
 勢を敵とくせ。目とくし。在合戦とら
タヒる。彼大軍ありとらと。打るや。はしりせ
 るき。小。小勢とて。卿中と。も。多れ。八幡林より
 陣と備へし。半不足也。又尾友甚右忠の射る
 素性ソセイ。敵と侮ウ了武勇ユウは懐マキ気キあつる也。武勇は
 氣キ愛アイ同トウ。是と森を横ヨコ目メとく。小合カウ力リキ

あひし事。秀吉の越度少く侍としや。

翌日午の秀吉より飛札を来し制しあふ。敵
 縦合戦タトヒと挑チカすむ。價ア仕ぬ共。必陣を望ノゾみ
 てたぐはさまとや。多州日。能と申作。然も信
 雄家康。雖も挑合戦タトヒ。必不可。意イを機ハに。陣池田
 勝入。森武勇の。あは侮ウ於敵。武勇に。なる付
 ころ人の。能陣可申。多候肝要也。謹々

三月十三日

秀吉在判
尾友甚右忠の

此制し治し。少勢。戦多勢。執越也。

事は是れ水次也。是れ皇子の。寡ハ固子五の歎
衆と云一。金云々石知有て。秀吉子悔限不
一。

○秀吉の尾列表御の勢之事

羽柴胤前守秀吉。尾列表御の勢之起ハ。津川云
番気。畠田長門守。浅井田宮丸為秀吉謀せし事
一。事也。子使子思ハ。多勢憤と散せんが故と云
也。芝野信列。高升。志坂。果役多し。美陣一
け。是ハ。後陣ハ。未醜。駒山科。宇治。勢多。是子充
満一也。右坂乃。津一。左右。と侍。右。たる也。其後。芝野

十二万五千の美利とて。固一。秀吉ハ。三月
廿一日。右坂。と。打立。多ハ。宇治。津。回。是子。扣一
勢也。次。才。に。打。し。り。廿三日。四日。廿六。先。勢。大。山。の
下。大。豆。戸。の。後。と。越。大。山。也。是。凡。是。子。陣。取一
也。是。の。後。陣。之。勢。わ。き。し。打。は。は。し。天。地。も。交。は。り
り。多。利。は。く。水。雲。に。秀。吉。も。廿七日。午。刻。に。川
を。越。り。つ。く。大。山。之。城。子。入。あり。其。未。之。刻。子
未。田。羽。是。是。也。是。大。名。衆。計。被。召。連。打。て
也。對。小。牧。山。向。城。と。多。く。拵。入。給。り。ん。との。陣。定
也。二。重。城。乃。要。害。一。の。先。手。た。り。は。と。て。日

根聖傳中。今中津次右衛門尉子左五入
勢二千余騎入垂谷。若崎山之城。小幡兼行
与也。子息右京亮。慶六。同右也。劫右也。同
勢四千余。小松山。乃城。子。丹羽也。石見守
長秀。主勢八千。主場乃城。子。森武藏守
主勢之子余内。窪山。城。子。蜂屋也。守金
森也。子。八主勢三千。主外里。下り里。辰下り
孝也。清也。子。陣取也。主。兼子。入。主。毎火
野。主。事。云。主。池田勝入。子。討死之事

池田勝入。子。討死之事



池田家老乃面々を呼ぶ。謀。里。者。ハ。小牧也。勢
逐日重なり。乃。たり。然。昌。三。川。人。難。
首。主。事。云。乃。き。り。幸。子。三。
列。子。而。く。中。入。一。國中。を。く。救。火。せん。事。
程。子。ハ。小。牧。山。ノ。事。一。孝。云。二。列。乃。勢。可。及。敗。軍
事。幸。事。ヲ。招。ク。如。ク。ナ。リ。一。主。首。秀。者。子。相
儀。一。三。列。表。發。尙。其。と。思。ハ。ハ。ハ。面。々。思。ハ。而
あ。ハ。中。入。リ。ん。と。被。申。ク。リ。何。ト。云。一。く。お。り。
ま。さん。と。云。一。ハ。己。卯。月。四。日。の。夜。大。山。津。中
陣。ハ。系。主。旨。切。て。望。み。一。り。し。秀。者。の

くくと御里惟多て。昨日一恙流此事多て。と
とて。先勝入とハ城一多。五日此子即ち池田又
秀吉の系。い眞川。今昨日お正いり。首尾相
違つくととて。人多子細藤本柏井乃一揆と強
得。村傲化右馬尉と一揆大将と。森川指右馬
門要害に入。至りん。何くま。なり由。藤本より
告知する者多と。り上。り。秀吉がなりと
同日。給つて。昨日六日打立。東三河をせと。と
救火。やうて。川取。藤本柏井と支城と拵。二揆
原。多。く。乃。杖。持。力。多。し。援助。一。毎。敵。敵。の。多。と

へ。取。付。と。入。お。ひ。や。う。と。程。多。う。ハ。尾。列。軍。國。ハ。味
方。子。系。一。し。り。一。必。敵。と。侮。侮。多。あ。り。り。切。け
志。持。つ。多。し。諫。め。と。勝。入。と。城。一。多。し。角。て。三。好
孫。七。郎。後。主。親。一。万。堀。之。五。郎。五。千。昨日六日
池田勝入三列子。多。く。殺。向。可。し。り。の。系。友。人
も。と。と。お。勢。勝。入。拵。圖。次。弟。系。返。一。の。多。く。旨。
増。田。仁。右。馬。門。尉。と。ハ。被。源。が。守。り。り。を。旨。勝。入
同。息。池。田。紀。伊。守。森。武。彦。守。方。へ。も。支。人。助。成。と
して。被。差。多。く。系。返。多。し。お。儀。と。な。り。固。然
秀吉の多。山。下。り。お。法。一。系。回。と。中。陣。と。一

て二重堀よりまき堀をめぐ。まき堀の地
 とよくはせ。用ひまきびりかりたり。卯月廿日の
 夜より池田父子森本茂守堀之太郎三好
 孫七郎友抄立己之刻に藤本柏井支口尺地
 と不備陣取より。二里四方一撥原斗し秀吉
 より立一カ右之地と且賜をまき首を渡り
 及びり。何事しつぎくそる者か。角て
 乃り三列表万を殺向との催し。八日の未明よ
 り且交あり。藤本より小牧山に至りては全
 上者ありて。信雄は七家康に。まあり

と知たり。信を子あり。者を重く責り。あひ
 て仰り。密り小觸あり。今日未之刻より小觸
 小触く。お勢の事を。旗をたてり。物をたせ。
 密り小牧山を思ひ。およし。柳原山平太。
 井伊儀代。母衣く者。使来書。お外あひ。小
 姓も。母衣く者。使来書。お外あひ。小
 ら。小牧山を八日未之刻より。まきをせ。後
 む。小觸小觸と城より。表陣あり。中回を後守
 小触く。遠國の歩士十人許。訪来。お表
 か。南より。お勢。おり。まき。おて。告知せ

新ぬと居坐わはさあひしは井上猪
首の甲頭六湯寺にうしきにたり。外紀
仔細たるをうしき軍初の内出りしと
りしむしきをわくしてこゝろこゝろ
打破しき。塔内に入りたれ。おね勘助才
次良助手控提大士の口にお防手。二三番実
別赤くまを多勢入替く打し。あまのあ
手と員士肥七良右衛門射し討せしむ。そ
もく弱兵等。搦手して落し。片相ま
右忠門射し勢一人も不漏討捕。二百余を檢

子備上。勝入之矣。搦しつて事外なる。搦手はく
まし。あまの。三好孫七良右衛門射し討せしむ。そ
もく弱兵等。搦手して落し。片相ま
右忠門射し勢一人も不漏討捕。二百余を檢
子備上。勝入之矣。搦しつて事外なる。搦手はく
まし。あまの。三好孫七良右衛門射し討せしむ。そ
もく弱兵等。搦手して落し。片相ま
右忠門射し勢一人も不漏討捕。二百余を檢

用いし

用いし

一本無

一本無

岡

用いし

も使ひあそよれ。そまらぬ首と云。人救ふ余也
 と云。使人と云。勇以使ふに遣還する人よ。ま
 ったど。唯逃く来た物もあそ。あそ。あそ。あそ
 と兵書。将程則士侮ふと云。此れ
 田中。又子。辞もあそ。久左郎。左右者
 共。城の推察のら。田中。八使の下。手。那と
 て。月。白。鼻。引。突。ひ。一。の。り。
 伴。田。中。の。子。五。百人。案。之。絶。首。と。云。
 次。長。良。た。り。一。に。依。く。所。教。と。云。此。り。
 卯。月。九。日。辰。之。下。刻。小。幡。村。より。あ。ま。り。た。り。城。

十書

を。人。ま。と。追。散。一。を。威。い。つ。か。し。く。た。
 尸。者。り。又。一。使。向。ひ。来。り。志。あ。り。極。家。と。云。
 者。是。也。と。云。一。の。あ。の。一。使。の。四。子。合。戦
 を。持。り。勢。を。り。各。免。悟。一。と。云。け。し。一。と
 一。の。一。程。一。里。な。り。一。の。事。た。し。一。の。あ。と
 一。の。一。と。だ。く。極。め。や。り。計。一。と。云。あ。り。也。先。子
 一。の。一。思。事。後。之。段。村。右。忠。門。射。白。江。槍。太。夫
 一。の。一。決。地。と。云。一。と。一。町。伴。一。張。あ。り。一。せ。い。あ
 一。の。一。と。く。一。の。一。肉。子。田。中。久。兵。衛。尉。一。と。云。あ。り。先。子
 一。の。一。と。く。一。の。一。足。握。と。云。一。の。一。合。戦。一。取。結

二十

手書

又とせし一書は、田中ハ強き郎後ハ坊ウと云哉ん
 とて其^{手書}り也。思ふ云ありハ坊^{手書}之^{手書}下^{手書}でハ^{手書}を
 細^{手書}首^{手書}ハ使せん^{手書}と^{手書}ら^{手書}り。刻^{手書}守^{手書}足^{手書}く^{手書}以^{手書}物^{手書}を^{手書}く^{手書}の^{手書}あり
 一^{手書}つ^{手書}を^{手書}固^{手書}も^{手書}不^{手書}入^{手書}傍^{手書}事^{手書}母^{手書}も^{手書}總^{手書}角^{手書}也^{手書}足^{手書}せ^{手書}に^{手書}ら^{手書}り。
 評曰。種^{手書}苗^{手書}ハ播^{手書}外^{手書}之^{手書}米^{手書}に^{手書}お^{手書}わ^{手書}て^{手書}。是^{手書}種^{手書}大^{手書}物^{手書}なり
 一^{手書}が^{手書}け^{手書}陣^{手書}に^{手書}く^{手書}秀^{手書}次^{手書}人^{手書}波^{手書}石^{手書}が^{手書}一^{手書}た^{手書}り。さ^{手書}す
 一^{手書}法^{手書}撰^{手書}子^{手書}あ^{手書}ひ^{手書}一^{手書}者^{手書}や^{手書}く^{手書}合^{手書}戦^{手書}也^{手書}四^{手書}上^{手書}持^{手書}た^{手書}家
 勢^{手書}た^{手書}り^{手書}と^{手書}。終^{手書}も^{手書}足^{手書}知^{手書}け^{手書}り^{手書}よ^{手書}く^{手書}少^{手書}く^{手書}と^{手書}あ^{手書}ら^{手書}る^{手書}さ^{手書}。
 思^{手書}ふ^{手書}本^{手書}夜^{手書}之^{手書}段^{手書}村^{手書}善^{手書}右^{手書}患^{手書}つ^{手書}白^{手書}に^{手書}控^{手書}大^{手書}更^{手書}さ^{手書}し^{手書}快
 炮^{手書}や^{手書}ふ^{手書}た^{手書}せ^{手書}防^{手書}ま^{手書}い^{手書}ら^{手書}り^{手書}と^{手書}も^{手書}。敵^{手書}控^{手書}砲^{手書}も^{手書}い

追拂ひもま^{手書}一^{手書}ハ^{手書}一^{手書}に^{手書}退^{手書}きた^{手書}り。然^{手書}と^{手書}云^{手書}を^{手書}取^{手書}て^{手書}押
 合^{手書}手^{手書}痛^{手書}く^{手書}我^{手書}之^{手書}何^{手書}も^{手書}甲^{手書}付^{手書}の^{手書}首^{手書}三^{手書}討^{手書}捕^{手書}て^{手書}と
 と^{手書}たり。と^{手書}や^{手書}も^{手書}事^{手書}と^{手書}せ^{手書}と^{手書}。進^{手書}之^{手書}事^{手書}ら^{手書}に^{手書}平^{手書}擊
 控^{手書}平^{手書}は^{手書}守^{手書}ま^{手書}ハ^{手書}。秀^{手書}吉^{手書}乃^{手書}所^{手書}馬^{手書}也^{手書}た^{手書}ら^{手書}り^{手書}一^{手書}つ^{手書}を
 孫^{手書}吉^{手書}乃^{手書}友^{手書}つ^{手書}ひ^{手書}く^{手書}所^{手書}目^{手書}也^{手書}と^{手書}あ^{手書}ら^{手書}る^{手書}一^{手書}た^{手書}ら^{手書}り^{手書}也^{手書}
 と^{手書}して^{手書}出^{手書}田^{手書}より^{手書}事^{手書}た^{手書}り^{手書}あ^{手書}ら^{手書}り。秀^{手書}次^{手書}ハ^{手書}不^{手書}難^{手書}に
 目^{手書}子^{手書}津^{手書}控^{手書}面^{手書}し^{手書}う^{手書}と^{手書}突^{手書}て^{手書}か^{手書}り^{手書}。少^{手書}く^{手書}突^{手書}て^{手書}
 沙^{手書}待^{手書}一^{手書}人^{手書}討^{手書}捕^{手書}し^{手書}う^{手書}た^{手書}。又^{手書}新^{手書}手^{手書}を^{手書}入^{手書}く^{手書}。拍^{手書}合^{手書}せ^{手書}我
 ひ^{手書}々^{手書}也^{手書}。平^{手書}擊^{手書}も^{手書}危^{手書}く^{手書}足^{手書}し^{手書}一^{手書}つ^{手書}。是^{手書}も^{手書}折
 之^{手書}も^{手書}控^{手書}不^{手書}し^{手書}て^{手書}子^{手書}よ^{手書}く^{手書}り。少^{手書}く^{手書}と^{手書}お^{手書}ら^{手書}る

敵汁付く旗中と目よ無印く無印く無印く
 助左衛門尉同勘ある由左衛門尉長中長らるる進
 向く様と合せ三ツノ槍我ノ事と裏く
 てまうに敵危くこころけしハ敵汁利
 新く一打搦く我もりよ二人の本下も長
 槍も一足しと討死し一たりかりかて
 ちを南に逃るしかり。東に逃るは
 まく。ちのな左衛門尉けたり。若時の成
 少し南に逃げり。池田父子本母を危く
 ちらるる音とあり。陣を破つる

やよよ。あまのまじし時と時あつて
 袂抱大物と叫ぶ。時中敗軍と刃くたつ。敵
 陣今まよと逃る。一の東十つありあり
 まよ。あまのまじし時と時あつて
 可なり。あまのまじし時と時あつて
 一ハ。あまのまじし時と時あつて
 けし。あまのまじし時と時あつて
 恥せらる。あまのまじし時と時あつて
 らく。あまのまじし時と時あつて
 逃せ。あまのまじし時と時あつて

家と久ち良ざい推取河のあまを奉^{ハク}かりうと
大の眼といふのり下^{ハク}か^{ハク}け^{ハク}し^{ハク}一^{ハク}交^{ハク}り
重とそ突くことけらまら^{ハク}か^{ハク}け^{ハク}し^{ハク}ひ^{ハク}ひ^{ハク}
きたる扱のらせと^{ハク}して久ち良^{ハク}し^{ハク}く^{ハク}よ^{ハク}ま^{ハク}
園よりつと突く魚あま^{ハク}の^{ハク}必^{ハク}た^{ハク}ま^{ハク}ま^{ハク}あ^{ハク}と^{ハク}
敗少すり物ま^{ハク}の^{ハク}備^{ハク}り^{ハク}先^{ハク}際^{ハク}い^{ハク}ま^{ハク}と^{ハク}ま^{ハク}れ^{ハク}と^{ハク}
里^{ハク}并^{ハク}進^{ハク}付^{ハク}よ^{ハク}二^{ハク}百^{ハク}八^{ハク}十^{ハク}條^{ハク}討^{ハク}捕^{ハク}ぬ^{ハク}池^{ハク}田^{ハク}勝^{ハク}入^{ハク}
同子息紀伊守全弟古新^{ハク}馬^{ハク}門^{ハク}討^{ハク}森^{ハク}木^{ハク}
獲ちも久ち良^{ハク}推^{ハク}つ^{ハク}ひ^{ハク}く^{ハク}追^{ハク}ひ^{ハク}首^{ハク}救^{ハク}多^{ハク}
討捕より^{ハク}交^{ハク}よ^{ハク}并^{ハク}伊^{ハク}軍^{ハク}人^{ハク}依^{ハク}り^{ハク}後^{ハク}衣^{ハク}商^{ハク}并^{ハク}伊

万子世^{ハク}て^{ハク}十^{ハク}九^{ハク}歳^{ハク}容^{ハク}顔^{ハク}美^{ハク}麗^{ハク}に^{ハク}て^{ハク}心^{ハク}優^{ハク}
よ^{ハク}き^{ハク}け^{ハク}ま^{ハク}い^{ハク}家^{ハク}康^{ハク}々^{ハク}親^{ハク}しく^{ハク}寵^{ハク}を^{ハク}
あ^{ハク}ひ^{ハク}の^{ハク}剛^{ハク}兵^{ハク}三^{ハク}子^{ハク}之^{ハク}勢^{ハク}を^{ハク}付^{ハク}け^{ハク}よ^{ハク}も^{ハク}久^{ハク}手^{ハク}の^{ハク}
辰巳^{ハク}なり^{ハク}し^{ハク}よ^{ハク}三^{ハク}股^{ハク}子^{ハク}倚^{ハク}へ^{ハク}白^{ハク}志^{ハク}子^{ハク}ひ^{ハク}の^{ハク}弓^{ハク}矢^{ハク}炮^{ハク}の^{ハク}
者^{ハク}五^{ハク}六^{ハク}百^{ハク}人^{ハク}先^{ハク}手^{ハク}と^{ハク}池^{ハク}く^{ハク}く^{ハク}を^{ハク}る^{ハク}ま^{ハク}の^{ハク}語^{ハク}り
之^{ハク}勢^{ハク}を^{ハク}子^{ハク}避^{ハク}易^{ハク}し^{ハク}追^{ハク}ま^{ハク}く^{ハク}足^{ハク}し^{ハク}て^{ハク}あ^{ハク}り^{ハク}
久^{ハク}ち^{ハク}良^{ハク}し^{ハク}も^{ハク}ま^{ハク}走^{ハク}来^{ハク}り^{ハク}使^{ハク}雷^{ハク}乃^{ハク}る^{ハク}上^{ハク}を^{ハク}の^{ハク}法^{ハク}制^{ハク}
士^{ハク}人^{ハク}救^{ハク}え^{ハク}ま^{ハク}ん^{ハク}と^{ハク}と^{ハク}池^{ハク}を^{ハク}ま^{ハク}り^{ハク}し^{ハク}は^{ハク}成^{ハク}く^{ハク}あ^{ハク}り^{ハク}
お^{ハク}ひ^{ハク}来^{ハク}たり^{ハク}し^{ハク}勢^{ハク}な^{ハク}ま^{ハク}の^{ハク}早^{ハク}半^{ハク}子^{ハク}立^{ハク}地^{ハク}と^{ハク}池^{ハク}
早^{ハク}毒^{ハク}と^{ハク}勢^{ハク}と^{ハク}ま^{ハク}ん^{ハク}と^{ハク}池^{ハク}を^{ハク}ま^{ハク}り^{ハク}し^{ハク}は^{ハク}成^{ハク}く^{ハク}あ^{ハク}り^{ハク}
早^{ハク}毒^{ハク}と^{ハク}勢^{ハク}と^{ハク}ま^{ハク}ん^{ハク}と^{ハク}池^{ハク}を^{ハク}ま^{ハク}り^{ハク}し^{ハク}は^{ハク}成^{ハク}く^{ハク}あ^{ハク}り^{ハク}

関と一接戦力のごとく。白きるひき。たつら疾
炮多や先達と射けり。子依く。武藏守あれと
進立よと。大書考りやと。ふかきとせ。関と
か子足る。手控おのれ。進拂り
とせ。疾炮あく。森の眉回を射たりけり
り。勢もせ。と。うけ。し。は。外。て。り。敵。の。気
は。氣。を。吐。味。の。是。は。力。を。失。ひ。泳。道。に。か。た
う。つ。く。け。ま。ば。敵。の。勝。り。あ。く。山。の。尾。崎
へ。取。く。推。也。一。つ。り。勝。入。父。子。も。た。ま。の。合
戦。の。多。く。あ。ひ。あ。り。け。り。右。と。強。く

甘く。い。と。振。く。勢。も。か。ま。身。も。は。り。あ。く。許
子。想。つ。し。ま。せ。井。伊。が。り。疾。炮。を。勢。川。志。り
う。ら。け。ま。い。な。る。事。は。な。ま。子。金。乃。扇。の。る。勢。は
と。ま。り。初。日。乃。お。り。め。く。か。一。上。たり。板。橋。徳。川
愛。こ。ま。い。浦。一。き。一。け。り。よ。と。伝。入。足。が。ら。さ
う。ろ。足。城。城。と。初。一。つ。下。し。久。報。を。足。が。内。丹
裏。く。う。ま。い。一。勝。入。の。護。本。と。く。成。て。弘。危
う。かり。一。く。秋。田。和。兵。衛。尉。備。兵。七。郎。片
桐。と。二。郎。竹。村。小。平。冬。子。と。一。か。一。色。と。つ
く。戦。ひ。居。たり。守。御。が。此。由。に。あ。る。事。も。

平あ乃敵と追ちり。子勝引つて是死と其はふ
ちとふは時ぞわと思ひこころあ助成ては置換
十文字よ切て中防と防とたつて水勢申と人
て云ん方より。梅のとき其敵の多勢なりと
味方小勢なれば相討つて是死と遂にけり
伴曰は者た志常はかり。果して遂に死と
わたり。あつて。那井右進助突て是れ勝入也
去り。戦て突外首級立てたり。是れ時少
子負とて安茂彦長清尉勝入子息紀伊
守と付て。まわ池田の先も池田丹後守

是の河列あり。鉄壁を物ふる。是踏ま地戦下も。
三人旅と云。内也。左右之勝ハも。人として追。敵を
と追。川丸丹後ちよ。元合と。依り。塔と立。物と
ふ。不と立。も。ま。と。有。一。と。勝入。同。嫡
子。紀。伊。守。素。打。死。せ。一。小。依。く。助。敗。軍。よ。及。ひ
け。ま。丹。後。ち。も。追。ま。り。あ。わ。り。先。陣。後。陣。い
との。成。て。追。り。卒。付。よ。う。ら。り。ゆ。と。母。衣。く
者。使。あ。む。士。と。長。追。が。一。と。れ。り。と。わ。引。返。し
ゆ。と。割。一。ゆ。へ。ん。ゆ。と。ぐ。ま。る。よ。地。さ。り。志。河。下
や。ま。久。ん。屋。く。追。捨。引。入。よ。ま。り

秀吉人作
年小軍人

○秀吉の縁池田父子討死出馬の事

天正十二年卯月九日午刻。池田父子森武義等
討死の由。正干楽田江をわたり。秀吉のつと
と之よ。死おくよ有之。城と堅固し
まもり人。その外。急く打立と。筋回し。鞭
馬。急ぎ。二番貝。小足。勝人。お。ば。馬
乃。つ。へ。と。な。あ。よ。う。一。立。強。り。二。あ。三。あ。り
十六。あ。ま。ま。で。お。一。ゆ。あ。う。昂。沙。出。る。わ。り。后
す。う。う。武。志。引。も。き。う。に。西。り。う。う。ふ。に
し。け。く。お。り。新。泉。お。木。村。集。人。佐。地。尾。茂。助

一柳市。お。り。と。是。陣。し。是。以。七。た。り。た。り。久
多。原。さ。う。て。白。く。ん。と。新。泉。と。北。坂。と。さ。り。り
ん。や。ま。は。は。ら。や。合。戦。事。と。て。小。幡。乃。の。家。康
信。権。乃。河。勝。と。丸。の。ゆ。や。と。為。武。志。と。い。ひ
たり。け。よ。た。ん。と。ん。と。け。ま。だ。よ。と。あ。ひ。ひ。よ
る。は。入。能。其。た。け。と。討。捕。ぬ。と。さ。り。や。敵。と
南。北。山。よ。付。く。乃。と。人。丸。入。け。る。あ。う。と。秀。吉
も。と。や。皮。と。人。と。急。ぎ。て。う。り。つ。池。田。よ。敵。と。う
あ。ら。い。海。ら。さ。れ。ま。ま。ら。う。け。と。取。と。東。三。割。つ。る
よ。不。用。し。て。く。死。越。る。う。む。お。ん。松。と。せ。り

とて。腹依りし。少備入りし。池田の席合
 戦し。人よし。いさ。ま。た。く。る。は。な。り。わ。り。ひ
 一と。各。の。内。を。い。れ。付。て。わ。日。も。毎。山。よ。か。ら。ん。
 三も。勝。て。甲。兵。法。の。志。あり。一。つ。も。不。合。新。り
 及。く。山。条。唯。拍。升。ま。ん。沙。馬。と。い。ひ。し。れ。て。出
 木。と。ん。と。指。柴。あ。ど。も。洗。う。く。の。と。い。ん。や。せ。ど。
 意。を。成。ゆ。陣。一。は。し。
 陣。目。あ。く。ゆ。と。洗。う。く。と。い。ふ。今。不。易。大。人。情
 あり。と。十。町。七。進。を。と。り。秀。吉。は。れ。先。陣。と。考
 合。し。し。よ。わ。り。て。又。合。戦。わ。り。上。場。の。新。と。

云々。勝。と。い。ふ。三。河。段。の。軍。ふ。わ。り。て。洗。う。進。し。り
 塔。と。い。ふ。塔。と。い。ふ。考。い。わ。り。わ。り。し。り。家。康。は
 さ。す。が。死。存。せ。り。と。い。ふ。と。い。は。れ。と。い。わ。く。割
 け。ひ。つ。り。よ。い。し。り。捨。利。と。い。ふ。と。い。ふ。腐
 消。う。わ。り。ま。ん。進。し。り。孫。子。は。討。つ。り。と。い。ふ。
 慎。ら。は。て。ま。り。物。あり。と。い。ふ。先。陣。は。打。ま。け。大。に。三。人
 討。死。し。し。り。よ。い。し。り。考。い。わ。り。と。い。ふ。秀。吉。は。ま。ん。よ
 塔。の。出。し。り。少。備。は。入。り。首。と。い。ふ。人。は。ひ。り。益
 あり。御。も。た。め。と。い。ふ。海。の。か。わ。り。と。い。ふ。
 何。も。く。と。い。ふ。ぬ。存。せ。り。と。い。ふ。と。い。ふ。風。俗。

敵ハ塘尾茂助仕人。即ハ新泉寺ヲ守テ吾馬
 走ラシト下ナル川ニ至テ敵ハ陣拂ヒト彼ニ近
 クシテ彼ヲ討ツ。塘尾ハ所ニ安カレテ
 進ムルニ所ニ至テ敵ハ某處ニ到リテ
 能ク少シクテ。小幡乃チ方ニ向テ
 鉄炮ヲ張ル。新入原ハ先ニ退ツ。かゝる事ハ
 百斗少クモ。親善堂ノ火トシテ心志ハ
 一ノ如ク。敵ハ志々トシテ進ハ。汝志々
 と返ルルノ如クノ事也。

○秀吉ハ十二万騎之侶ト打細路ノ事
 カシテ翌日午陣樂田ノ場ト可打細路ノ事
 一ノ極ニ至ル。又敵ハ塘尾茂助
 有ケテ。某本ノ内大平村ノ事。何
 事ニ得小ける。秀吉ハ十二万騎ハ既ハ修
 備セテ。引ルル。凡ノ如ク。下坂ノ車
 引ルル。其ノ事ハ。豈ニ韓信ノ下
 小北平。其ノ事ハ。近カレテ。多
 辰ノ割。其ノ事ハ。其ノ事ハ。其ノ事ハ。

撥九雲^カ殿^カはあつとつり来^カて。敵^カ助^カの者^カ陣^カ
 乃^カ陣^カ一^カさ^カは^カ敵^カ軍^カをたたく打^カつとみ^カら^カ鉄^カ炮^カ
 と打^カへ^カく河^カの^カ勢^カと^カ作^カり^カけ^カ既^カよ^カせ^カあ^カ入^カんと
 入^カり^カあり。突^カて^カお^カ敵^カ軍^カよ^カ返^カり^カへ^カと^カま^カら^カ
 乃^カく^カ八^カ十^カを^カ打^カつと^カ。陣^カは^カ柴^カ木^カ拍^カ弁^カを
 ひ^カし^カより^カ。究^カ竟^カの^カ村^カは^カ多^カ少^カを^カ見^カて^カ。い^カて
 う^カ乃^カき^カゆ^カる^カん^カ唯^カい^カつ^カま^カんと^カ堅^カ固^カの^カあり^カ。り^カ
 乃^カま^カに^カと^カ後^カ始^カひ^カて^カ。い^カま^カも^カ多^カり^カけ^カり^カと^カ。後^カ尾^カ
 損^カ益^カと^カ勘^カ弁^カし^カ。唯^カ急^カと^カ突^カて^カお^カ返^カり^カ。時^カ刻^カ
 う^カつ^カふ^カ志^カと^カい^カつ^カく^カ。敵^カは^カ亦^カあ^カる^カ。味^カ方^カは^カす^カく

成^カつ^カと^カて^カ。西^カの^カま^カと^カあ^カり^カ。強^カく^カ。鉄^カ炮^カ。鉄^カ炮^カ
 を^カ敵^カに^カ立^カあ^カま^カし^カ。一^カ撥^カを^カ西^カの^カま^カへ^カ。悉^カく^カ。池^カ集^カ
 て^カ。抑^カく^カ。お^カつ^カか^カし^カ。お^カ待^カ。細^カさ^カ。道^カ。下^カ。せ^カま^カ。あ^カつ^カく^カ
 強^カ動^カ。あ^カり^カ。あ^カる^カ。と^カ。い^カと^カ。鉄^カ炮^カ。と^カ。は^カり^カ
 突^カて^カ。お^カつ^カく^カ。蠅^カ。と^カ。拂^カ。よ^カ。ぐ^カ。と^カ。く^カ。お^カり^カ。子^カ。事^カ。妻^カ。手^カ
 へ^カ。人^カ。と^カ。け^カ。たり^カ。や^カ。ぐ^カ。と^カ。い^カの^カ。う^カ。ら^カ。へ^カ。取^カ。入^カ。東^カ。子^カ。向^カ
 て^カ。お^カつ^カく^カ。一^カ人^カ。も^カ。あ^カ。り^カ。と^カ。い^カま^カ。り^カ。い^カ。川^カ。上^カ。水^カ
 乃^カ。ま^カ。卦^カ。ク^カ。り^カ。兵^カ。事^カ。者^カ。は^カ。云^カ。敵^カ。攻^カ。ま^カ。右^カ。を^カ。左^カ。と^カ
 備^カ。へ^カ。よ^カ。と^カ。ガ^カ。り^カ。一^カ事^カ。と^カ。一^カ撥^カ。原^カ。不^カ。急^カ。る^カ。の^カ。と^カ。ら^カ
 乃^カ。さ^カ。い^カ。よ^カ。然^カ。を^カ。西^カ。より^カ。南^カ。より^カ。一^カ撥^カ。を^カ。山^カ。の^カ。尾^カ

大岡巻九

時^りく^と取^くあ^らふ^ふ。あ^らふ^ふの^ら願^ふあり^も貝^と鳴^る
か^らこの^音より^もあ^らひ^く勢^とを^奉中^こ
す^まま^らさ^き事^{。肝}魂^もあ^らふ^ふと^思ひ^れ
あ^らふ^ふ弱^き下^こと^まま^まく^く子^と近^んと^せ
と^{。播}尾^の尾^のの^附す^まま^まき^にあ^らふ^ふと^思ひ^れ
ら^との^けの^集く^くと^らり^く物^ぞん^と一^の子^と近^ん
め^ま死^の文^命なり^と思^ひの^移れ^{。只}ま^ま固^子成^成
て^近と^人と^{。中}知^く色^{たり}たり^{。あ}ま^りと^つと^く
付^ぬり^{。附}の^{。播}尾^にむ^り。突^倒し^く首^を捕^ら
て^ハの^まつ^つの^り。五^六な^り及^つり^{。茂}助^家長

相^田方^と右^兵衛^尉。射^吉川^新兵^衛尉。并^河平^右衛^尉
射^中西^膳右^兵衛^尉。保^本善^右衛^尉。少^輔は^一度^休
あ^らふ^ふ一^般二^三馬^をひ^くゆ^りて^ハ裁^ひと^{。後}ハ
二^町東^道取^り。茂^分杉^りし^き酒^を一^ツ二^ツ
ま^まく^{。相}田^よと^{。其}と^つぎ^にま^まの^一校^の
中^まし^{。い}あ^らう^切ま^の敵^出を^思ひ^切く^{。又}ゆ^り
と^{。四}子^少う^とと^{。い}く^にい^くと^{。其}と^つぎ^にま^まの^一校^の
と^{。お}も^とと^{。其}の^邊ま^ま者^もと^{。あ}ら^うと^{。道}と[。]
て^{。な}ら^ねり^{。い}く^にい^くと^{。あ}ら^うと^{。お}月^十日[。]
羽^黒乃^古城^{。御}善^右衛^尉。被^仰付^{。播}尾^茂助^山内

三十一

三十一

くと言ふ。とて。後よりけし。林新彦 存号新彦
進也。初子突ておつ。忠節まゝ。昔か。一
きて。一番子突てお。大音教と。上各家合
お戦う。敵ハ陸中くたき入。せし。り。城
中の勢つよかり。少人。折破く。あり。り
のさ。おくれ。た。勢。進付進也。一。子。二。百
討。首。り。こ。内。小。物。と。き。一。者。子。の。子。子
三。百。傷。つ。射。林。十。彦。か。久。敷。ち。右。忠。の。射。也。如
柄。十。百。と。い。さ。捕。て。御。前。へ。引。て。系。り。ぬ。陸。川
後。ち。更。と。算。す。も。い。浅。野。聖。は。兵。忠。射。と。い。一。余

作三郎左衛門
手前門と作

と。信。也。首。と。切。り。林。十。彦。身。松。子。世。十。五
威。音。教。義。忠。鹿。射。子。勝。也。一。一。五。年。以。子。の
人。質。と。して。秀。吉。へ。奉。上。せ。り。と。い。は。是。も
て。し。き。り。と。て。後。り。か。く。内。忠。の。ゆ。は。り
侍。り。義。理。を。不。知。又。首。と。切。り。見。せ。し。と
彼。保。付。より。り。び。多。九。日。の。夜。に。ま。者。お。せ。又
母。の。言。へ。及。ま。と。は。り。り。と。り。十。日。の。お。生。吉
よ。及。一。と。い。え。と。云。け。ま。い。も。二。三。日。の。あ。り。り
よ。ま。く。潤。く。侍。り。り。と。て。又。十。評。取。也。一。取
ん。の。也。是。か。ま。お。後。り。り。ま。に。在。た。い。り

史記

三十一

御心うとくもおなほら。まゝ氣をかい
くにして云し。皆油をぞ絞^{シホ}りけり。かして十
日の物心志のり。念仏。首を刎られし。くり
十歳。此よりつゝ又侍る。お性遊。腹を切られ。体
ちりけ。ま。るる人皆感涙をぞ得^ウけり。
同十日。不破源六。存。城行。鼻を。打。世。幸
事。よ。し。足。た。ま。す。小。堀。貴。重。を。た。か。く。川
田。一。と。よ。攻。る。心。づ。り。し。足。さ。え。と。依。之。水
攻。し。一。と。よ。つ。き。首。上。日。の。夜。お。振。回。方。子。所
屋。作。り。し。小。堀。く。と。十。五。許。し。小。堀。を。り。守

ら。ゆ。を。塔。十。万。塔。乃。是。列。する。け。坊。依。境。の。町
場。と。定。め。る。く。十。五。間。よ。上。ま。す。と。あ。る。く。廣。さ。と。彼
後。お。り。又。六。日。し。た。く。こ。お。来。せ。り。う。ら。本。多。川。を
か。て。あ。ぐ。入。流。す。ま。日。に。い。ま。ま。と。増。と。か。ん。て。ゆ。り。ぬ
と。目。ね。や。し。く。懐。り。ぬ。是。の。町。屋。か。ら。や。三。尺。餘。り。水。湛。
へ。本。と。う。い。ま。う。也。蛇。胤。を。と。し。く。と。く。集。り。来。え。
女。子。八。畝。より。是。は。難。儀。し。く。没。入。者。も。多。かり
けり。源。六。拍。り。く。く。や。思。ひ。人。と。常。と。助。け。下
へ。り。と。連。る。り。と。う。ふ。島。被。助。一。命。一。板。と。傳。え。
一。柳。多。分。と。城。と。の。形。入。り。と。是。の。り。と。う。り。多

藤原の御馬と号られ此の村と新宮とに
 丸毛三郎共衆と入る所也。是も是は五毛堅く
 丸毛よ彼所至六月十三日此の陣より討つせ給
 へ。月十六日正午大垣海城よりしつとあり

守
 藤原三郎

尾列崎江の城 澁川 隠謀忠入る事
 澁川左近将監一益の去年より水作坊の部を
 領し。是等の城主としてまゝ。は東田滅亡し
 後ハ松若れ身と成り。於江列南新謀忠分ふ
 子ら此部一有し也。因之を鶴の城と信権の

別本御事
 右

一 新しき御事
 と秀吉の既より及洋楯し。尾列本遠く城へ。澁
 川と富田平左衛門とを以て。あ人在あし。入る
 ひぬ。澁川思ふやう物に城と御界し。尾列
 おきて中入御。家康をむねいやりし。んを
 謀る。前田と千部と。いふは秀吉の忠義と
 してされ。一産忌揚も地有とといふ。り
 して。りけ。公昂。同。り。し。り。六月十六日
 長渡海。城。入。り。然る九鬼を
 免よ。首。告。知。也。あ。い。勝。勢。合。三。子。人。船。り

系つ進出けり。澁川城より梅江^{カニエ}城へ
 行くより。即一益毛入城して柵^{サカ}等こころ
 とやくし付んとせし。又よ。いさるも此志と
 さむらひ人。酒家より放火せし。八思^{ハチ}の三
 十よりより焼か下り。その折長家康の徳^{キヨシ}例
 城よりけり。けり。いさるも此志とせし。格と
 一。控^{コウ}殺と打ちあつ。梅江城より日せ。先
 海よりいさるも城の中澁川城よりけり。いさるも
 又大船より九条より。鉄炮^{テツポウ}軍より。かく心城と三三
 を死せし。いさるも此志とせし。十九日よの樓^{ロウ}

本

梅江上城^{ロウ}中よりいさるも。ち鉄炮と打入射す
 り。和よいさるも。大矢^{オホヤ}兵衛より射入町の野を
 あも鉄炮と子此方よりいさるも。いさるも。いさるも
 うら納^{ノウ}けし。城よりし。又いさるも。いさるも。いさるも
 此すいさるも。いさるも。城の兵九八蟬^{セミ}のぬき。いさるも
 小成ぬ。いさるも。いさるも。いさるも。いさるも。いさるも
 板^{イタ}城より退ると。いさるも。いさるも。いさるも。いさるも
 本造^{ホンゾウ}城よりいさるも。いさるも。いさるも。いさるも。いさるも
 五人いさるも。いさるも。いさるも。いさるも。いさるも。いさるも

返一に討てりやう此堅物もさるんけ城へ入
し入来しけ道とさるなり。澁川天も毛付と地
もあつまぬ境と成く。城の越前此分
一とさ前少くともさりよなり

俾日。信長公清在世の所へ迄くはし
澁川又教も澁川とて信長公清とて
果敢決断もいふらるる。今れわの海
いとわらるるなり。呼討さるるなり

○秀吉のまて尾列表決出陣之事

同年八月下旬れり。秀吉のまて尾列表決出陣之事
尾列表決出陣之事。二宮山へよるを
吉道邊不敵又地陣とて世に傳へり。聖目
村と對陣。家康へ水牧山よむ。聖目
より上原村河田村大野村三ヶ所。聖目普
傳へり。九月下旬大に出来せり。是も城
も決定られ兵糧も下。大まは沙汰。至十月
三日大掃も人教と打細り。さよりて
尾列表決出陣之事

○秀吉が水俣場表沙出勢をくす

同十月六日勢別羽津内を陣をくす。その日の
城を搦へ蒲生忠高率部を城に増次等
右衛門尉と城をくす。信雄は中へ入り
内射陣をくす。濱田は城小湫川に其集
素岩の城より坂井右衛門尉石川伯耆守を城
より。目とあり。信吉と有。のふふふ。是は
左衛門尉の。お和睡の扱よりその所より
結ひたり。信雄はつりやうれ子細をくす。津平

もたぐり。津田はましくして。信雄はつと。秀吉はつと。十月
廿日於矢田河原津射面をくす。東陣をくす。ま
るく。被服合。秀吉はつと。市人お細をくす。尾
別表取おの勢に取入。仕置等之候。堀尾
茂助。一柳市女。次弟より。一柳構ひ。可。旨
被服をくす。

或曰。信雄はつと。被服合。東。けり。事。ま。く。ま
連和睡。義。洞。と。や。
凡。被。堀。尾。茂。助。於。尾。別。勢。取。入。大。多。村
支。度。之。名。村。と。云。多。勢。と。云。

評下
中
中

退

大信親の

三十五

大和とわらまゝ一上は厚く若殿
ておたくとて一も物なり人あつ

淡路島に於て... 淡路島に於て... 淡路島に於て... 淡路島に於て... 淡路島に於て...



